

チエリツプ。
四季だより



新品種「恋茜」

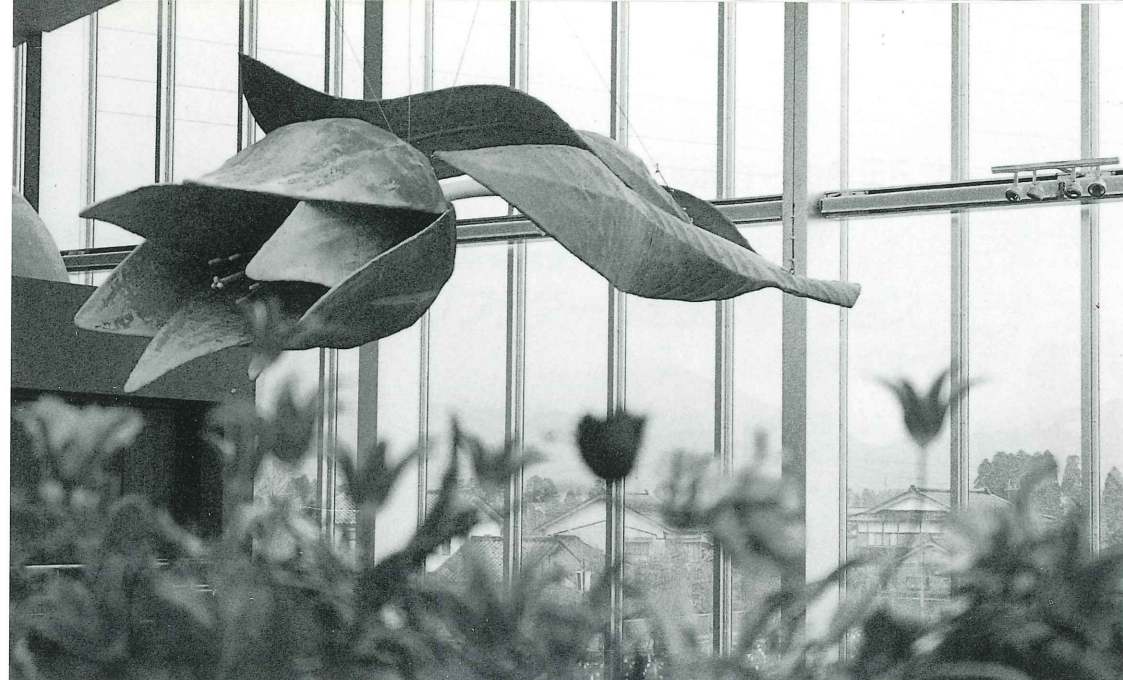
1997. 秋号
Vol.4

フラワーケイション

花と緑の自由な対話

フローラルアーティスト

井上 恵子



東京の武蔵野に当時あつた恵泉女学園短期大学園芸科は、日本全国から学生が集まり、全寮制だった。その中に富山の氷見出身の友人がいて、夏休みなどで帰郷するたびに、大きな平たい桶に入った鱒寿しを皆に振る舞ってくれた。

くだおれの大阪といわれる街で生れ育った私だったが、竹で押さえられた桶を開けると、笹のしつとりとした緑、鮮やかで、優しいオレンジ色の鱒、その下に大粒の真白なご飯、なんとも美しく、今までに味わったことのないおいしさだった。

こんなに洗練された美しさと、おいしいものを生み出し、話す言葉が大阪弁に近いアクセントの富山は、どんなところなんだろうと鱒寿しをほおばりながら、思いを馳せたものだった。

あれから二十余年後の春、チューリップの国、富山県砺波市を「NHK趣味の園芸」に出演されているお二人、甲子園短期大学教授で園芸家西良祐先生、大阪府立園芸高校で教鞭をとっておられ園芸デザイナーの

中山正範先生と一緒に訪ねた。

大阪の堺市大仙公園で開催される「オランダフェスティバル'89」の花壇デザイン、美術館の装飾を依頼され、翌々年に大阪で開かれる「花の万博」を控えていた頃だった。

畑一面に色とりどりのチューリップの絨毯が敷きつめられたようなような景色、青空と一体化している。試験場やチューリップ公園も訪ねた。

公園では、品種ごとに植え付けられた花々が、大きく美しく開花している。そして趣向を凝らした装飾の数々。砺波の風土に育まれ、ここまでの地に根づかせ育てあげられた方々に敬意をもつて、あまりの見事に驚きの目で眺めた。春の喜びが溢れていた。

それから七年後に、一九九六年四月二十日オープンの「チューリップ四季彩館」チューリップテラスの企画・デザイン・装飾の依頼を受けた。「'90花の万博」の園芸プロデューサーであり、オランダ国際園芸博覧会フロリアード'92・日本政府（農林水産省）出展総合プロデューサーの鷲尾金弥さんの紹介だった。

また、'93第二回ジャパンフラワーフェスティバルで、お会いしていたチューリップ四季彩館名誉館長國重正昭さんに再会し嬉しく思った。

下見に出掛けた時、コンクリートの打ちっぱなしまで出来ていた二階



に上がると、全面のガラスを通して、雪をいただいた山々が、新たに植え込まれた木々の向こうに、輝いて見えた。この時、地面から立ち上げて、チューリップや植物を装飾するだけでなく、天井までのこの大きな空間に巨大で造形的なチューリップを飾ろうと閃いた。屋外から見てもポイントになる。建築設計図面にはなか

った昇降機の設置を提案した。
二十一世紀の花と緑の展示装飾は
空間と壁面を飾ることがテーマにな
ることを確信している。

私はチューリップの生まれ故郷ト
ルコの街並みの直線的なテラスに、
チューリップの色彩と曲線を生かし
た図形で立体的な花壇をデザインし
た。

ミュージアム入口の両サイドには、
春を代表する切り花を大きなフラワ
ーアレンジメントに仕上げるための
器もデザインした。二階にはさまざ
まなチューリップが舞い踊り、壁を
つたい降りる蔓性植物を配した。

この時、大切なのはこれらの花々
が、一層映えるために配する木々と
芝生の「緑」の存在である。
オープンの日、花たちは一斉に咲



きそろい、生きていることを謳歌し
ているようだった。

この十一月にも、チューリップホ
ールで、『フラワーコミュニケーション
——花と緑の自由な対話——』をテ
ーマに装飾する。四季折々の花と緑
の提案を楽しんでいたきたい。

今秋は、大阪ドームで開催される
「大阪国際蘭展」に井上恵子フロ
ーラル・アートスクール

として出展。そして、
ノルウェーからMr.
トウル・グンダーセ
ン、アメリカからMr.
S・キイコ・ジーママ
ンを招いて、デモン
ストレーションと講習会
を開催する。多くの人
に、楽しく参加しても

らいたいと思っている。

花と緑を通して人と人、心と心の
対話、花と緑の対話「フラワーケイ
ション」を私はテーマにしている。

これからも、日本各地はもちろん、
世界の方たちと一緒に、「フラワー
ケーション」していきたいと願っ
ている。



略 歴



いのうえ けいこ

(井上恵子フローラル・アート
スクール校長、株式会社フラ
ワーケーション代表取締役)

恵泉女学園短期大学園芸科卒業。
アメリカ・ビル・ヒクソンズフロ
ーラルアートスクール卒業。ドイ
ツBS・ガーデンバウ・グルンベ
ルグ特別コース修了。

一九八二・八三年(社)日本フラワ
ーデザイナー協会大阪府支部長
一九九〇年国際花と緑の博覧会コ
ンテスト審査委員。現在では、大阪
府農林水産審議会委員、(社)フラ
ワーサイエティ評議員、大阪府
フラワー装飾技能士会副会長、東
京西武池袋コミュニティ・カレッ
ジ「花の学校」講師。NHKおしゃ
れ工房・趣味の園芸講師、等活躍中。

著書に「誕生花Birthda
y Flowers」保育社、
「花イキイキ 水揚げマニキュアル」
タキイ種苗他がある。

一九九〇年 国際花と緑の博覧会
花と緑のコンテスト優秀賞
一九九三年 第二回ジャパンフラ
ワーフェスティバルin・OSAKA
A デザイン部門「花・ロンド」
農林水産大臣賞

一九九六年 大阪府優秀技能顕功
賞「なにわの名工」他、多数受賞

富山県 育成品種

「恋」 こい

茜 あかね

「チューリップ 農林二十一号」



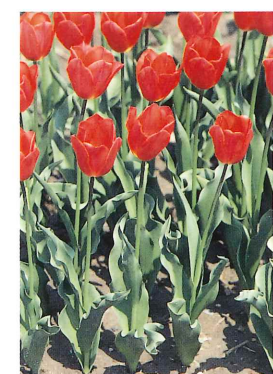
富山県農業技術センター野菜
花き試験場（農林水産省チュー
リップ育種指定試験地）作出。平
成9年8月19日付で農林登録

葉の着生バランスも良いことから、
花壇植え及び切り花生産に適し、球
根の増殖性にも優れ安定した球根生
産の安定とともに、二〜三月出しの
促成栽培ではボリューム感のある切
り花を得られるのが魅力です。
なお、これまで富山県で育成し農
林登録された品種は「黄小町」、「白
雪姫」など二十品種あり、それらの
品種は県内全栽培面積の二十五%を
占めるまでになっています。

●これまでに農林登録された20品種

登録番号	品 種 名	発表年度	登録番号	品 種 名	発表年度
農林1号	サクラ	1965	農林11号	五 郎 丸	1980
農林2号	ウイステリア・メイド	1965	農林12号	紫 水 晶	1980
農林3号	プリンス・オブ・ニッポン	1965	農林13号	黄 小 町	1982
農林4号	トナミ・シティ	1965	農林14号	紅 輝	1986
農林5号	クリスマス・レッド	1966	農林15号	紫 雲	1986
農林6号	オトメ	1967	農林16号	初 桜	1991
農林7号	三 姉 妹	1980	農林17号	白 雲	1991
農林8号	神 通	1980	農林18号	紅 豊	1993
農林9号	薄 化粧	1980	農林19号	雪 壺	1993
農林10号	白 雪 姫	1980	農林20号	夢 紫	1995

八月十九日火曜日、新聞とテレビ
で一斉に富山県育成の新品種「恋茜
（こいあかね）」が発表されました。
昭和四十九年、花色が鮮明な覆輪
の品種を育成することを目標として、
昭和四十八年にオランダより導入し
た「7311」と故水野豊造氏が育
成した「平和」との交配が行われま
した。それによって得られた実生系
統の中から選抜が繰り返され、平成
六年から八年までの三年間系統適応
性検定試験に供し、この「恋茜」が
優良と判定されたのでした。



▲平和



7311▲

恋茜▼



写真提供：富山県農業技術センター 野菜花き試験場

チューリップの組織培養

〔富山県農業技術センター
農業試験場研究紹介〕

大量増殖を目指して―

チューリップの新しい品種が生まれるまでには、前述の「恋茜」の例にも見られるとおり約二十年の歳月を経なければなりません。

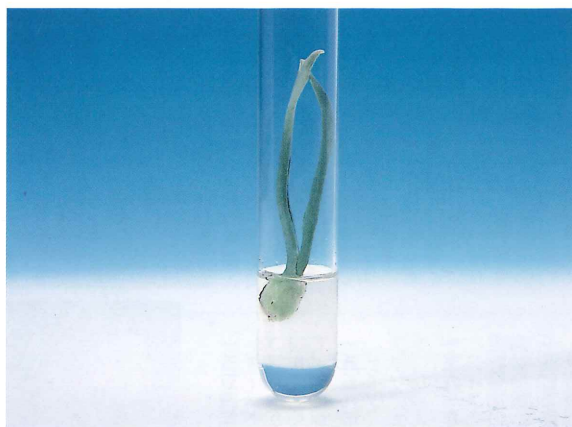
そこで、富山県農業技術センター農業試験場・生物工学課では、平成六年度から、組織培養法による大量増殖技術を用い、新品種の育成期間の大幅な短縮を目的として研究が進められています。

大量増殖への道

交配して得られた種をまいて育てると、開花するまでに約五年、その後、特性の調査を重ねながら選抜と淘汰を繰り返して、品種登録に必要な球数に増やすまでに約十五年、合わせて約二十年必要です。

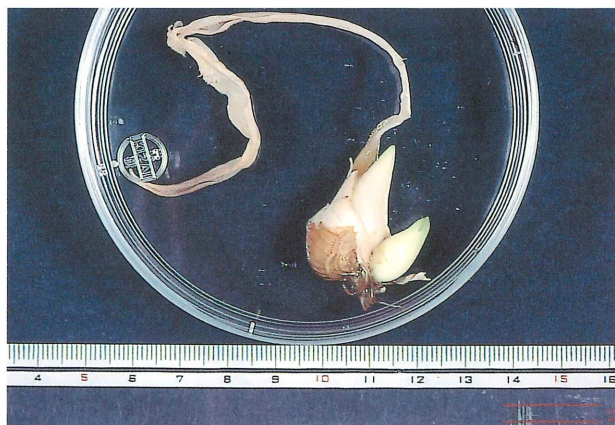
組織培養による大量増殖技術を確立することにより、増殖期間を大幅に短縮でき、新品種が一般に供給される時期を早め、市場競争力を高め

▶球根の育成



▲球根内組織からの
幼植物体の再分化

▼培養によって得られた球根



ることが可能となります。また、無菌培養することによって、増殖期間中はアブラムシが媒介するモザイク病などの伝染を避ける効果も期待できます。これまでの組織培養の研究によって大量増殖への足掛かりが得られたのです。

球根の再生

チューリップの組織培養は、球根内部の組織を栄養分やホルモンを加えた固形の培地に移植して生育させる技術です。生物工学課では平成六年度から研究に着手し、これまでに試験管の中で直径三センチ程度の球根を作ることに成功しました。

今後、開花可能な大きさの球根にまで育てるとともに、増殖に利用する部位や温度、培地などの最適条件を特定するための研究が続けられる予定です。

チューリップのあゆみ

〜チューリップ四季彩館ミュージアムより〜

原生

チューリップはいつから人々に知られるようになったのでしょうか。紀元前十六世紀、エーゲ海文明の遺跡から出土した壺には、既にチューリップが描かれていたと言われています。

このようにチューリップの起源はとも古く、その原種は中央アジアを中心に地中海から中国までの広い地域に渡って自生していたのです。



▲チューリップの原生地のひとつカザフスタン（アルマティー郊外）

十六世紀トルコ

ヨーロッパにおいてチューリップに関する最も古い記述は、フランス人医師、P・ペロンの日記の中に見られます。一五四六年、彼は近東諸国に調査旅行を行い、しばらくの間イスタンブールに滞在しました。彼

は、その日記の中でチューリップを「赤いユリ」という名前で説明し、多くの外国人がその球根を入手するために船でイスタンブールへやって来たと記録しています。

トルコから

ヨーロッパへ

オーストリアの駐トルコ大使であったO・G・ブスベクは、一五五四年の春にイスタンブールへ向かう道路際の畑にこの花が咲いているのを見たところ、回想録に書いています。ヨーロッパに初めてチューリップを示す「Tulip」という単語を紹介したのはブスベクでした。その後、彼がその球根を自国に持ち帰ったのがヨーロッパへの最初のチューリップであったと言われています。



▲ブスベクの肖像
所蔵：アムステルダム国立美術館

トルコ

ヨーロッパ

日本

十世紀頃のイスラム文芸には、自生のチューリップがさかんに登場した。

一四五三年

東ローマ帝国を滅ぼしたオスマン帝国は、文化的に著しい発展をみせ、チューリップの栽培を本格的にはじめた。

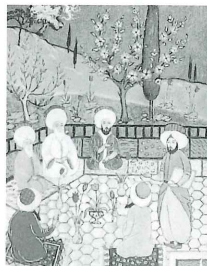
トルコでのチューリップ栽培は、スルタン・スレイマン一世（一五二〇〜一五六六）の時代からさかんになった。

一五四六年

P・ペロン（フランス人医師）は回想記の中で、多くの外国人が花の球根を手に入れるために船でイスタンブールに来ていたことを、記録している。

チューリップはスルタンたちに好まれ、宮殿内の庭に数多く植えられていた。

品種改良がさかんにおこなわれ、認定審査するための「花委員会」が設けられた。



一五五四年

オーストリアの駐トルコ大使ブスベクが、コンスタンチンブルで初めてチューリップを見て、その球根を自国に伝えた。

一五五九年

ドイツ、アウグスブルグでゲスネリアナ種に属するチューリップが植えられていた。

一五六一年

スイスの植物学者ゲスナーが、世界最初のチューリップの植物画を掲載した。

一五七二年

クルシウスが友人のブスベクからチューリップの球根を入手した。

一五九三年

クルシウスがライデン大学に赴任し、オランダにチューリップ栽培を広める。

一六〇八年

フランスにチューリップが伝わる。

一六三四年

オランダで第一次チューリップ狂時代がはじまる。

一五六一年、スイスの植物学者C・ゲスナーはチューリップの植物学的な記載を発表しました。これが最初のヨーロッパに紹介されたチューリップの植物画です。この功績により、後年、C・リンネ（スウェーデンの博物学者）はチューリップの学名をチューリップ・ゲスネリアナとしました。



▶クルディスタニック・チューリップ
『ディオス・コリデイス薬物誌注解』の
ゲスナーの添付論文より

チューリップ命名の由来

十六世紀の半ばブスベクは、現地はまだ寒いのに美しく咲き乱れる花々に感動し、通訳を通してその花の名前を聞くと、「この花はトルコ帽に似ている」と説明されました。しかし彼はこのトルコ帽を表す現地の言葉「チューリパム」を花の名前と勘違いしてしまい、友人に紹介しました。

これが英語で「チューリップ」と変化したものであろうとされています。
ちなみに当時トルコでは「ラレ（laale）」と呼ばれていました。

オランダへ

フランス人植物学者C・クルシウスは、一五七〇年代ウィーンの植物園長であった当時ブスベクからトルコのチューリップ球根を受け取ったと言われています。一五九二年にライデン（オランダ）の植物園長に就任した彼は、植物園内でチューリップを栽培し、その後オランダでチューリップ栽培がさかんになるきっかけをつくったのです。



▲クルシウスの肖像
作：マルティヌス・ロータ
所蔵：アムステルダム国立美術館

日本へ

Vol. 2 春号でも紹介しましたが、その後日本へチューリップが渡来するのは十九世紀に入ってからのこととなります。

そして、一九一八年、富山県東砺波郡庄下村（現、砺波市）で水野豊造氏によって栽培がはじめられたチューリップは、今では砺波市の花、富山県の花として春の砺波平野を彩っているのです。

一六三八年
ムラト四世のバグダッド遠征を契機に、イランから七種の園芸品種が持ち込まれた。

当時、栽培されていたチューリップの品種は、千五百種以上にものぼった。

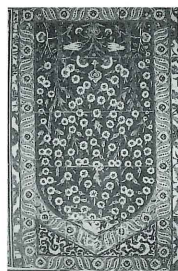
一六五一年

オーストリア大使シュワルツェルホルンが、ヨーロッパ園芸品種十種をイスタンブールに持ち込む。

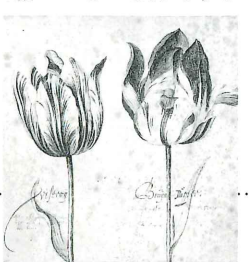
スルタン・アフメット三世の時代にチューリップ人気は頂点に達し、後にチューリップ時代と呼ばれるようになった。

トルコでも球根に関心が高まり、価格が上昇。一七二五年、価格を確定するリスト（公定価格表）が作られ、これを越える価格での販売は禁止された。

チューリップをモチーフにした様々な装飾品がさかんに作られた。



当時のオランダで珍重されたのは、ウィルス病による斑入りチューリップであった。



中産階級の年収の、数倍の値がつく球根もあった。

産業革命が始まり、オランダでは砂丘地を開発して、チューリップ球根大量生産の時代をむかえる。

一七三三年

オランダで第二次チューリップ狂時代がはじまる。

一八二八年

チューリップが日本の植物誌に「チューリッパ」としてはじめて登場した。

一八六三年頃

ヨーロッパからチューリップが日本に渡来した。

一九一〇年

横浜の業者がオランダからチューリップの球根三万球を輸入した。

一九一八年

富山県東砺波郡庄下村（現、砺波市）で水野豊造がチューリップ栽培を試みる。

一九二〇年

千葉や神奈川で、本格的なチューリップ球根生産に着手するが不適地のため失敗に終わる。

一九三七年

富山県産チューリップ球根をアメリカに初めて試験輸出する。

一九四六年

富山県に球根協会が設立され、戦後のチューリップ生産が本格化する。

一九五二年

砺波市で第一回チューリップフェアが、開催される。

一九五二年

水野豊造が日本で最初に新品種を発表する。



チューリップ四季彩館からのお知らせ

秋季特別企画展

「フラワーコミュニケーション

—花と緑の自由な対話—

●期 間／平成9年11月7日(金)
から11月16日(日)

●場 所／チューリップホール



チューリップとハーブのドライリース



チューリップ四季彩館
TONAMI TULIP
GALLERY

(財) 砺波市花と緑の財団

〒939-1113

富山県砺波市中村一〇〇一

☎ 〇七六三一三三七七一六

FAX 〇七六三一三三〇〇九〇